

故郷



大冠西八班
藤山益男

私の故郷は山口県周南市で（昭和15年5町1村と合併、徳山市から改名）されました。想いが出深い温暖で人情豊かな明るい都市で、南部は瀬戸内海に面し港湾も大型船が着岸でき、重化学企業が多数位置し港は複雑な島に囲まれ巡航船が設定されています。湾の沖には大津島があり、旧海軍の人間魚雷回転の基地があり記念館があります。又北部は中国山脈の一部



にあたり農村市域が点々と存在して隣接都市とも産業



経済で結び付きが強く「周南地区」と呼ばれています。周南はコンビナートが形成され製品出荷は県内一位で、瀬戸内海工業地帯で重要な位置を占めています。

さて、私が通っていた小学校には日露戦争の児玉大将が祀られています。又、当時の海沿いには海軍燃料廠があり、軍艦が燃料補給し外海へ出ていました。その後、戦争が不利になると米軍の爆弾攻撃が有り、燃料廠は滅茶苦茶に破壊され、外れ爆弾が市内の、我が家の裏も落下爆発！轟音と揺れがすぐく防空壕が潰れそうになり、我が家は屋根瓦も窓硝子も飛散し土が積り後片付けが大変でした。

しかし山口県人は困難な時代でも礼儀たたく元気に頑張りました。そして徳山民謡もできて「♪はあく七重八重咲く、岐山の桜のんた徳山のんたのんたえ港見どころ花どころ♪」と謡われています。方言の「のんた」は語尾を強調する言葉です。「雨じゃ

けい、いけませんにいのんた！」又「はあーいっちよる」「きちよる」「みちよるいね」「めげちよるは！」は壊れたの意味です。又「ようおいでしたいのんた」「きちよったいね！」とか「そねいな事をしちやいけん」独特の方言です。他、観光では湾内巡りや、周南コンビナート工場夜景、大華山からの天望などや、銘品としては、「ふぐ・白銀蒲鉾・わさび」などなど。高槻に在住して故郷を想うと大華山や四熊山や港湾が美しく思えるが、いざ帰ってみると暗いイメージで、燃料廠後の出光興産の石油精油所は停止している由、寂しくもあります。



伊又さん
また、あいましよう。

芥川一班

K Y

こんにちは、十二年目ごに会える伊又さん。七度目ですね。笑顔で朝をむかえ、窓をあけて爽やかな風をいただき、一日がはじまります。

自己流のシルバー体操をして、朝食、家事、そして、新聞を、ゆつくりと時間をかけて、小さな声で読みます。そして、前日、計画した事を、一つ一つ片づけていきます。スカット出来る日、半分の日、全々の日もありますが、いろいろの事柄を計画する心構えが大事じゃないかと思ひ、前日、なんやかんやと計画をたてます。

笑顔で思いやり心を忘れずに、さまざまの人との出会いのなか、頑張りでなく、一生懸命に、ささやかな幸せを感じ、健康で、一日一日、過ごして、八度目の伊又さんに会いたいと思っています。

